
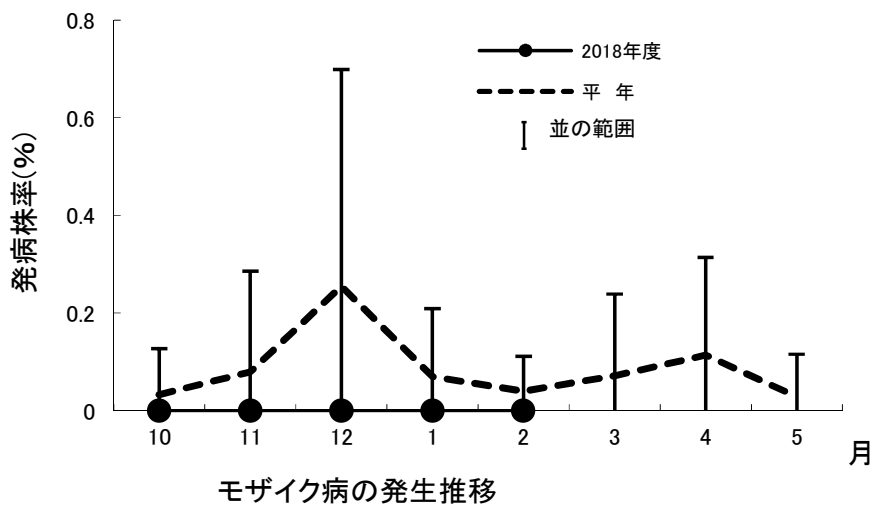



作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	① モザイク病		
2月の発生量（現況）	(発生なし)並		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、2月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

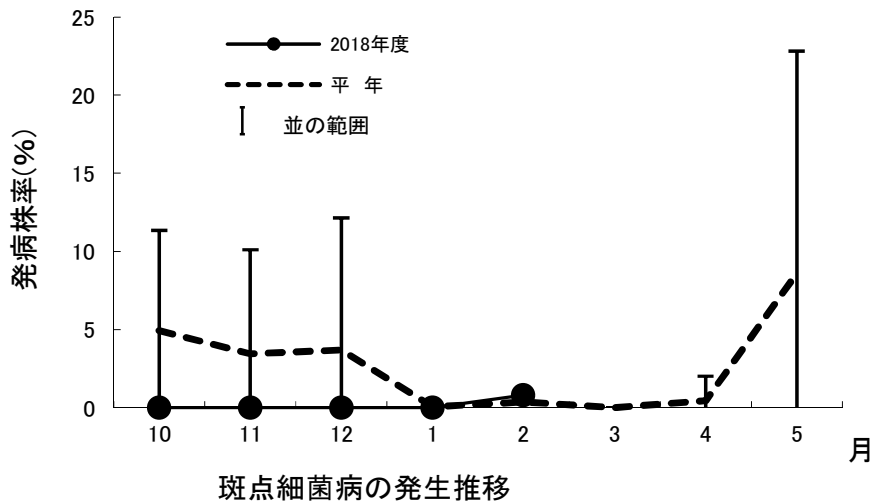


防除のポイント

- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。



作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	斑点細菌病		
2月の発生量（現況）	並		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、2月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

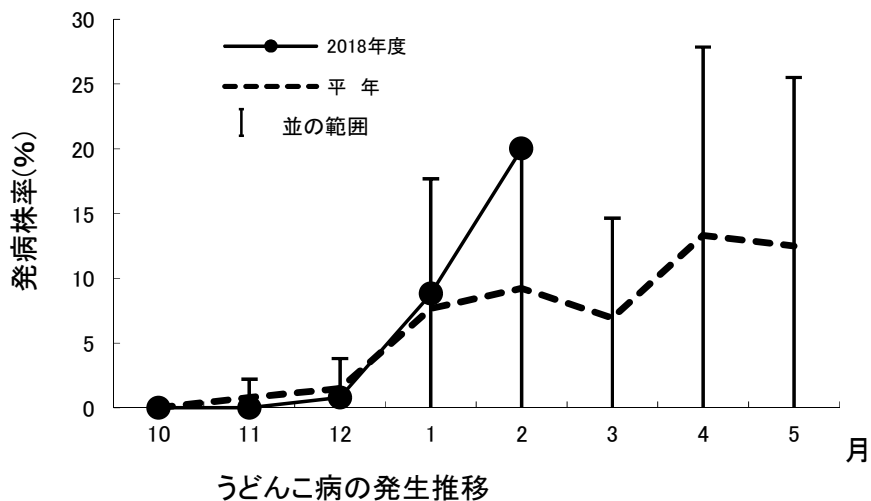


防除のポイント

- ・ 本病は主に葉、葉柄に褐色の斑点を形成し、時には果実や果梗にも被害を出す。
- ・ ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・ 被害植物の残さは、施設外に持ち出し処分する。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
2月の発生量（現況）	並		
3月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、2月より発生量は減少増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

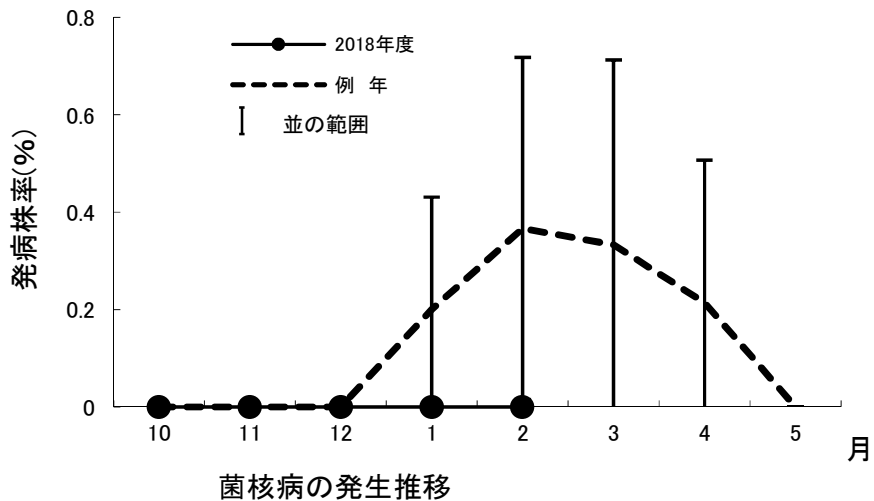


防除のポイント

- ・ 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・ 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。



作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	菌核病		
2月の発生量（現況）	(発生なし)やや少		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病株率の例年の発生推移から、2月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

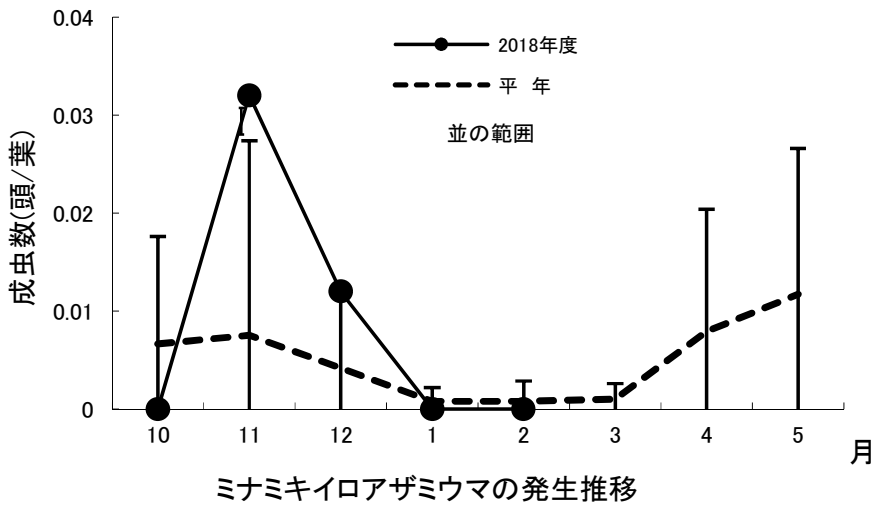


防除のポイント

- ・発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。
- ・多湿条件下で発生しやすいので、換気を十分に行い多湿にならないようにする。
- ・発生しやすい時期なので、薬剤による防除に努める。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		 
2月の発生量(現況)	(発生なし)並		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、2月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

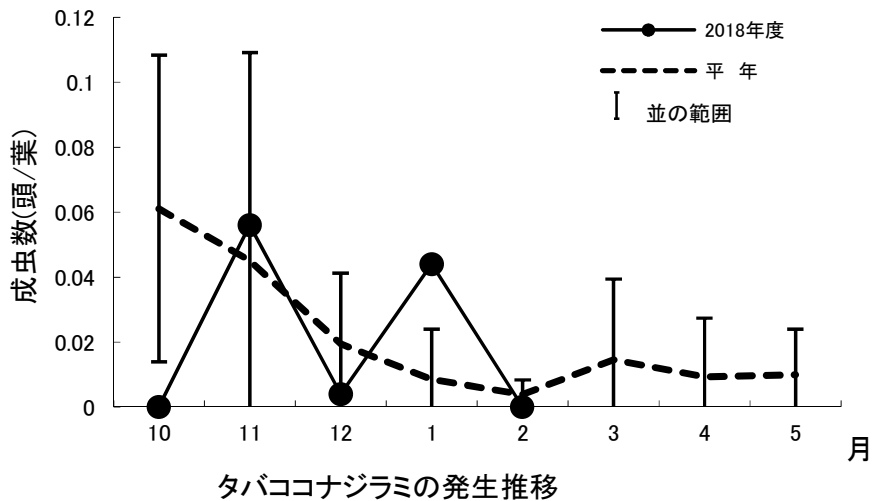


防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
2月の発生量(現況)	(発生なし)並		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、2月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

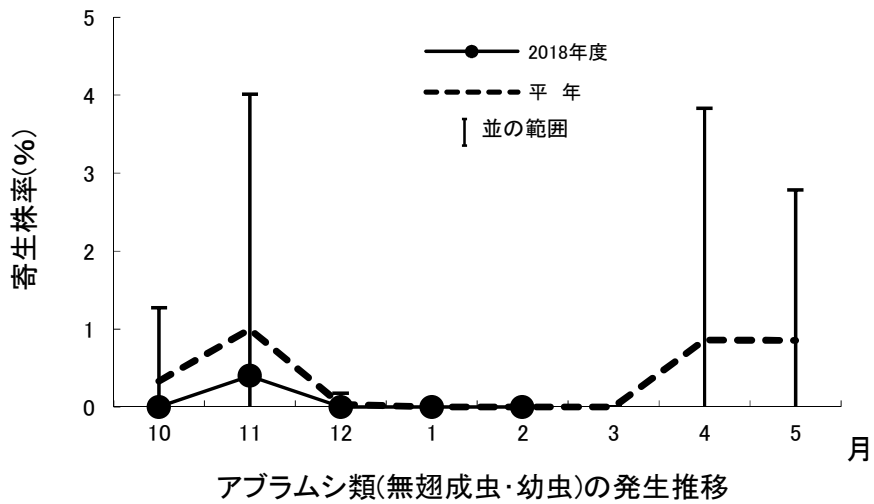


防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
2月の発生量(現況)	(発生なし)並		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	寄生株率の平年の発生推移から、2月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

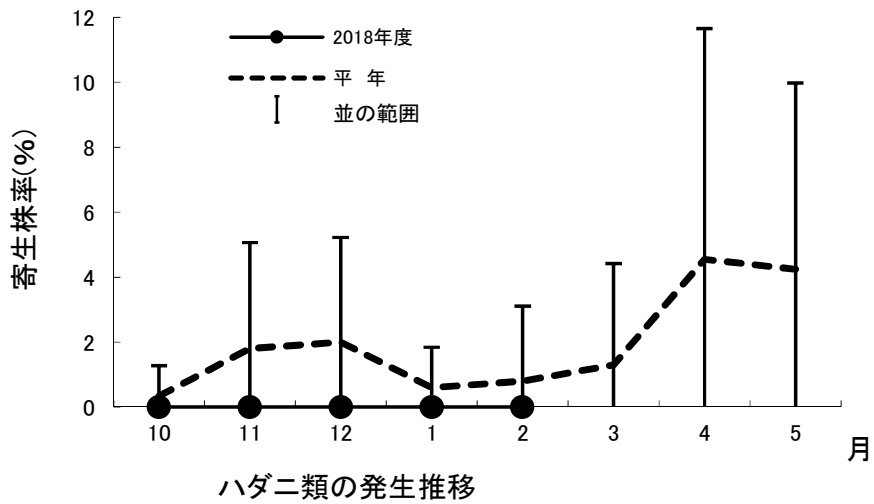


防除のポイント

- ・本種はモザイク病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
2月の発生量（現況）	(発生なし)並		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生株率の平年の発生推移から、2月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

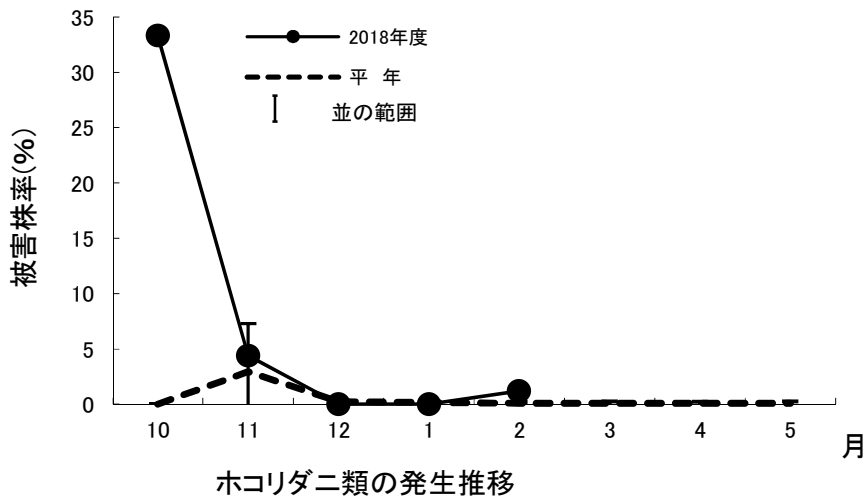


防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	ホコリダニ類		
2月の発生量（現況）	並		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	被害株率の平年の発生推移から、2月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



防除のポイント

- ・ 短期間で高密度になりやすいになるため、早期発見・防除に努める。
- ・ 施設内のナス科雑草は発生源となるので除去する。
- ・ 薬散は葉裏へ丁寧にいき、生長点付近や未展開葉に潜っている個体へ薬剤がかかるようにする。
- ・ 天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。